

 評価のポイント**CL-4.看護実践能力：意思決定を支える力**  
**[46-4] 複雑な状況にある尊厳死・DNAR・リビングウィル****1. リビングウィルとACPの違いについて考えてみましょう。**

リビングウィルとは、将来自らの判断能力が失われる事態を想定して、自分に行われる医療行為への意向について事前に意思表示されたものである（資料6）。話し合いに焦点を当てたACPの産物がリビングウィルである（資料10）ことを理解できると良い。

**2. あなたが担当する患者がリビングウィルを持っていました。あなたは患者にどのようなことを確認しますか？そのプロセスがACPであり、リビングウィルにつながる話し合いになります。**

まずは持参したリビングウィルが有効なものかを確認するために、書かれた日付や署名があるか、内容を確認し、どのような状況で書かれたのかなどを把握したあと、患者の生活状況や価値観などを確認しながらリビングウィルに書かれている内容が、患者の真の意向であるかを確認することが大切であることを理解してもらおう。

**3. あなたが働く部署を想定して、ACPやリビングウィルを提示された時の対応について話し合ってみましょう。**

正解や不正解はない。これまでにACPやリビングウィルを持参した患者に対応した経験がある人がいないかを確認して、もしあればその事例をもとに具体的な対応についてディスカッションすることが望ましい。